

宇都宮ジャズ ワンフレーズ談義

宇都宮のミュージシャン3人に
参加して頂きました。

トロンボーン 豊田悦見さん
アルトサクソ 亀和田國彦さん
ギター 武井貴志さん



豊田悦見 (tb)

【豊田】 トヨエツです。J・J・ジョンソンなど良く聴きますが、なんと言ってもカール・フォントナですね。アメリカ生れのトロンボーン名手なんですけど、ジャズ全般から良く聴くのは、サクソスのハンク・モブレー、デクスター・ゴードンなどいろいろ、そして彼等のように音楽のコンセプトを考えて演奏したいと思っています。自



亀和田國彦 (as)

分が目標として一番思い入れが出来るのが、ビーバップの一九五〇年代ジャズで心を揺り動かさせる自分のジャズの原点ですね。レパートリーにはやはりチャーリー・パークーの曲を揃えてみたいですね。

【武井】 僕はギターをやっていますので、ケニー・バレルを聴くことが多いかな。ケニーの都会的な洗練された感覚はジャズギターの手本ですね。シングル・トーンのラインが大好きです。今、宇都宮市民ジャズ・オーケストラのリーダーを努めていますけど、演奏しながら聴衆の反応を確かめています。スタンダード・ナンバーでも良く知られている曲が多いので、何となく楽しんで貰える顔がそこにありますね。また、聴衆のノリで我々のビッグバンドもより演奏がスイングする。自分達の演奏じゃないような出来もありますね。もしかしたら聴衆が作り出してくれるのかも知れませぬね。

【豊田】 モダン・コンボにはその感覚が常にありますね。目の前のテーブルで聴いている訳だから雰囲気は手に取るように判ります。自分の演奏するアドリブがどんな

風に展開するのか、全く状況が読めない。このモダンジャズの世界が好きでたまらないですね。

【亀和田】 それは同じですね。アルトを吹いていますから、リード楽器を聴く事が多くアートのペッパー、スタン・ゲッツですが、メロディだけでは無くインプロヴィゼーションを作り出すことだけに全力を尽くすというところに魅力を感じてまして、ジャズを始めたキッカはここにありますね。曲を聴くのではなくプレイヤーの人の心を聴くという、その辺りが特にいいですね。アート・ペッパーもスタン・ゲッツも個人の魅力で勝負している点で惹かれます。



武井貴志 (g)

それとインプロヴィゼイションのメロディラインがとても綺麗で、音色は人の叫びとして聴く事もできますね。

演奏のスタイルとしては、ワン・ホーンで100%自分が好きなように演奏出来るのが良いと思っっているのですが、聴く側からするとツウ・ホーンで楽しませるのも良いかと、ライブハウスでは演奏していますね。

【豊田】 やはり私も演奏する立場や聴く側の立場を考え楽しめるよう心掛けていますし、ひとつのステージを大切にすること、自分の演奏を聴いている人達に感じて貰えることを大事にしたいですね。

【亀和田】 それで、一生懸命演奏していても何か受けが悪い、シラケタというか、つまらない感じがあるのでは無いかと、勝手にそう思うと必死になってしまいますね。

【豊田】 それは、じっくり聴いてくれる証拠じゃないのかな。酔いしれてる(笑)逆に、にぎやかな人がいると静かに聴いてくれる人が迷惑そうにしているのを感じた事もある。

【武井】 反応が即座に出てこないのは、



栃木の県民性みたいなところもありますね。感じかたはそれぞれ違いますけど。

【豊田】 コンボでは2管を取り入れたカタチで演奏していますが、ワン・ホーンで演奏した場合に自分の言葉だけでは伝えらるのに無理があるので、例えばサクソスを入れたりして「ささやける人」と一緒にジャズを伝えられるサウンドを作りたいと思っています。今までは怒鳴っていた自分の演奏があったのですが、これからは、「ささやく言葉」の演奏を目指したいですね。

【亀和田】 それと、普段ジャズライブを聴きに来てくれる人で、どれだけ判って、多少でも理解して聴いて貰っているのかなという心配はありますね。判りやすいジャズの演奏も時々必要かなとも思うし、両方で楽しめるジャズがあれば一番ですね。

【豊田】 宇都宮の街でジャズが育たないというところがあるのですが、簡単に言えばプロが仕事にならない、ということですね。

【亀和田】 確かに、プロが活動できる環



境は今の宇都宮では無いに等しいから、もっと欲しいところですね。

【武井】 よく聞いたりする、松ヶ峯にキヤバレー等がひしめきあった頃の活気さや音楽の匂いと、当時から無いとはいえず、何かワクワクする気分ですね。

【豊田】 東京にはブルーノート、スイートベイジルのように、プロが演奏するジャズ場所がありますが、この宇都宮にどの位あるのかというところ……どうでしょうか。この街にもブルーノートを作るんだと言う意気込みが、プレイヤー含めて皆の意識と底力がいま必要だと思いますね。第二のナベサダを輩出できるように。プロもアマチュアも目指すは良い演奏を心掛けることだと思えますね。それと、この街で汗をかいた人、熱いジャズを持った人が本当の意味で増えて欲しいです。その環境ができればきっとジャズの街の発展に繋がると思っています。

【武井】 街の中には素敵な場所がいっぱいある訳ですが、特徴としては蔵ですね。市内中心には三〇〇という蔵が点在してい

ます。それなのに使われないものが大半ですね。物置きになっている状態です。この蔵の生かし方ですがジャズとからめてコラボさせた時、他に無いジャズが生まれてくるのではないかと思います。そこに宇都宮らしさと、この街のジャズらしさみたいなものが創り出せたら良いと考えています。大谷石造りのカフェや音楽のライブに使われている蔵もありますし、これからぜひとも活用させたいですね。建築設計の仕事から蔵の持ち主に話を聞いてみると、蔵を壊したく無いとの思いがあり利用する人があれば貸して蔵を残したいと思っているようです。

【亀和田】 大谷石の中での音の吸収、音の返りのタイミングはジャズに良い感覚ですね。聴く側にも落ちついた雰囲気を楽しめる事ができそうです。

【豊田】 蔵も含めて市内全体が空洞化と言われていますので、少しでも活性化できるように店舗が戻ってきて欲しいですね。さらにお店と合せてジャズ全体の活性化もできれば嬉しいですね。ジャズを通していろいろな人達と出会うことも楽しみです。

